

過去に負けない合唱祭を

過去の合唱祭を振り返る

いよいよあと2日に迫った合唱祭。今年の合唱祭は感染対策との両立を図る新たな形式での開催となる。今号では、コロナ流行前の合唱祭がどのような形式で行われたのかを過去の錦城高校新聞やインタビューをもとに調査した。合唱祭についてより深く知るきっかけにしてほしい。

(編集部共同取材)

大迫力の全体合唱

例年の合唱祭では、1・2年生が合同で行う「全体合唱」が行われていた。しかし、全体練習を行うのは感染対策の観点から判断してリスクが高いため、今年行わないことになったそうだ。

学期の始業式の後第一体育館で行われていた。2017年度の全体合唱の曲目は『C.O.S.M.O.S.』。この年はパート別に分かれず、全員が同じメロディーを歌っていたようだ。



会場の心が1つに(錦城高校HPより)

先生も舞台上

全クラスの合唱が終わった後に毎年恒例で行われていたという「先生合唱」も今年行われなかった。先生合唱は、先生によって行われ、授業では見られない先生の個性が光る合唱に毎年大歓声が上がっていたそうだ。

2017年度の先生合唱で歌われた曲目は『キン肉マン Go Fight!』。指揮は現在2学年の学年主任を務める納富健児先生。納富先生によると、歌う曲は納富先生や現1学年主任の太田剛先生などの数人の先生が話し合っていて、「みんなが知っている曲」というテーマのもとに決めたそう。指揮も先生たちに呼びかけたうえで、結局キン肉マン好きだという納富先生に決定したそう。先生合唱は呼びかけによって集まった有志の先生によって毎年行われてきた。2018年度は当時の



笑顔でダンスする納富先生(映画研究部提供)

納富先生は曲の後半、指揮そつちのけで踊り出すというサプライズのパフォーマンスを披露。これについては「ダンスはやるかと最初から決めていました。生徒に新たなパフォーマンスのスタイルを見せたいと思っていました」と話す。「祭」の名の通り、観衆を楽しませたいと思ったことがダンスをするようになった理由だそう。あくまで合唱祭の

個性豊かなパフォーマンス

過去の合唱祭では合唱以外にも、様々なパフォーマンスを織り交ぜた個性豊かな発表があった。

2017年度で目立っていたのは『美女と野獣モデル』。ミュージカル仕立ての発表で、合唱に加えて小道具や衣装を使った寸劇を披露した。2018年度は当時の

寒空の下たすきを繋ぐ

錦城高校A女子優勝

2月5日(日)に第43回こいだら市民駅伝大会が中央公民館前を出発点・中継点・終着点として行われた。錦城高校陸上部からは女子がA、B、Cの3チーム、男子はA、B、C、D(Cチームは欠場)の4チーム、錦城高校教職員からは2チームが出場した。結果は一般女子の部で錦城高校Aチームが優勝し、メンバー全員が区間賞を獲得。また、一



山中先生から田代先生へ

員が区間賞を獲得。また、一区を走った早川愛花さん(1E)が区間新記録を樹立した。一般男子の部では、錦城高校Aチームが5位という結果を収めた。練習時に気をつけたことについて女子Aチームに所属する池田美和さん(2M)は「きついつきに声をかけあいながら4人で競り合えました」と振り返る。そして、今後に向けては太田結菜さん(1E)は「今後はそれぞれの種目



結果を受けて笑みを浮かべる

に「戻り、きついつと思いが、自己ベストをめざして、頑張りたいと思います」と意気込んだ。最後に吉川佳凛さん(2D)は錦城生に向けて「これからもベストを尽くせるように頑張っていくので応援よろしくお願いします」と話した。

一般男子の部1区の中で、4位という好成績を修めた入野翔太先生は「自分の前を走っていた大学生がリードしてくれたので、楽しく走りながら目標よりも10秒以上速いタイムを記録することができました」と自らの走りを楽しんだ。また、機会があれば来年も出場したいという。そして、錦城生に向けて「高校生活での、勉強以外の行事などの経験が、卒業後に生きてきます。だから、何事にも全力で取り組んでほしいです」と呼びかけた。(紫)

冬のレジャーを満喫!

ワンダーフォーゲル部恒例の冬合宿を行いました。行き先は昨年と同じく、長野県の志賀高原です。部員数が大幅に増えた今年は、1・2日目は初級者と上級者の2班に分けて練習を行い、3日目は全員で一緒に滑走。顧問の川越崇先生のほか、小野寺昭彦先生、山田功司先生が参加し、その指導の下、1日目は自信のなかった人も3日目には急斜面を滑ることができるようになりました。夕食は、全員が爆食。白米を何杯もおかわりする人や、ケーキを3皿平らげた人までいました。いっぱい滑り、食べ、たくさん思い出ができました。(ワンゲル部員)

信濃で感じる真田の魅力

再刊277号では、全国高等学校総合文化祭が開催された長野県を当時の新聞委員会取材の様子が記載されている。新聞委員会は、長野県長野市に位置する観光地「松代」を訪れ、街の様子や伝統について取り上げている。「松代」は関ヶ原の戦いや大坂の陣などで活躍した真田家ゆかりの地でもあり、この号では、真田家に深くかかわる建物や国の重要文化財についても触れ、地域を挙げて当時の建物や景観を守り続けている様子が紹介されている。また、長野県の郷土料理であるおやきのお店を訪れ、おやきの魅力を伝えるとともに過疎化や観光客の減少によって経営が苦しくなっているという都会近郊に暮らしている私たちには見えない地方の課題についても取り上げられていた。

紙面を通して長野の伝統を伝える

編集委員の声

私がこの記事を選んだ理由は二つある。一つは、個人的に真田家が好きで、皆さんにも紹介したいと思ったからだ。この記事が書かれた当時は『真田丸』という大河ドラマが放送された直後であり、真田家ゆかりの地である松代も大きな話題となっていた。二つ目はコロナの制限がない中、外部に取材に行っている記事に魅力を感じたからだ。新聞委員会としては一日でも早くコロナに制限されない取材をしたいと思っている。コロナの制限が緩和されたら今までよりもさらに面白く皆さんに思っていただけのような新聞を作っていきたいと思う。(蛋)

小平高校と合同ライブ

2月4日(土)、ホールにて軽音楽部のライブが開催された。今回のライブは小平高校軽音楽部と合同で行われた。錦城のバンドと小平高校の1年生バンドがランダムにパフォーマンスを行っていた。中には錦城と小平高校の合同バンド「ニルバーナ」は田中耕作先生をボーカルに錦城や小平高校の先生、小平高校の生徒によって構成され、田中先生のシャウトを交えたボーカルに観客は圧倒されていた。最後は堀河健一先生をボーカルに据えた合同バンドによる演奏が行われ、熱狂のライブは幕を閉じた。

ライブ終了後、小平高校軽音楽部の倉智律人さん(1年)に取材を行った。錦城に来たのは初めてだという倉智さん。今回は盛り上げ役に徹したというが、普段は観衆が盛り



田中先生が洋楽を熱唱

「都立高校の中では、活発に活動していると思います」と話す。また、錦城の音の調整技術や設備の充実度に驚いたという。錦城のバンドについて「B、Zの松本孝弘さんが創設したという伝統にも名前負けしていないほど上手な演奏でした」と話した。(香)



合同ライブの感想を語る

陸上部	女子Aチーム・太田(1年)・早川(1年)・池田(2年)・吉川(2年)	6位入賞
新春駅伝競走大会	女子駅伝の部	
女子Aチーム	太田(1年)・早川(1年)・池田(2年)・吉川(2年)	6位入賞
大会	▽2月5日(日) 第43回こいだら市民駅伝大会	
一般男子の部	錦城高校A	5位【大会新】
	錦城高校B	12位
	錦城高校C	14位
	Teachers 1r	27位
	Teachers Sr	37位
一般女子の部	錦城高校A	1位
	錦城高校B	3位
	錦城高校C	4位
将棋部	▽12月25日(日) 第33回関東大会	
個人戦男子の部	会長杯	優勝
水谷祐太(2K)		
男子バレーボール部	▽12月24日(土) ウインターカップ	
	第1位、第3位	
ソフトテニス部	▽1月29日(日) 東京都女子シングルス大会	
兼ハイスクールジャパンカップ予選	出場	
剣道部	▽1月15日(日) 東京都高等学校新人剣道大会	
	柴田(1年)・小林(1年)・岩井(1年)	初戦出場